

平成24年度事務事業評価シート（23年度実施事業分）

事業番号	14 09 03	中期総合計画主要施策番号	4-04	担当課	部・課	教育委員会事務局スポーツ課		
事業名	県民スポーツフェスティバル事業				内 線	4472		
					E-mail	sports-ka@pref.nagano.lg.jp		
実施期間	S48 ~	根拠法令等	スポーツ振興法					
実施方法	県が直接実施					国庫・ 県単	県単独事業	

事業の概要等	目的 (必要性)	スポーツ・レクリエーション活動の場を広く提供することにより、県民の交流を深めるとともに、健康で明るく活力のあるスポーツライフの実現に寄与する。
	対 象	県内在住者
	目指すべき姿	地域や種目を超えた参加者の相互交流を図るとともに、スポーツ・レクリエーション活動の普及を推進することにより、生涯スポーツ社会の実現をめざす。
	事業内容	<p>・県民スポーツフェスティバル県大会 誰でも気軽に参加できる種目や、日頃の練習の成果を発表できる運動機会をつくり、スポーツに親しむきっかけづくりを提供する。</p> <p>競技の部: 11種目(陸上競技 マレットゴルフ ミニソフトバレー等) ふれあいスポーツの部: 5種目(バリアフリーディスクゴルフ、ノルディックウォーキング等) イベント広場: レクリエーション体験コーナーと健康相談体力測定コーナー</p> <p>・県民スポーツフェスティバル地域版 総合型地域スポーツクラブ等と連携を図りながら、県下20箇所で、レクリエーション、ニュースポーツ、健康づくり運動などのイベントを行う。</p>

事業コスト	区 分	単位	22年度	23年度	24年度(当初)	23年度事業費の主な内訳
	最終予算額 (A)	千円	4,500	4,000	4,000	県民スポーツフェスティバル実行委員会負担金 3,421千円
	決 算 額 (B)	千円	4,479	3,421		
	B(H24はA)のうち一般財源	千円	1,621	805	800	
	概 算 人件費	人	0.80	0.80	0.80	
	概算人件費 (C)	千円	6,654	6,606	6,606	
事業実績	概算事業費 (B(H24はA) + C)	千円	11,133	10,606	10,606	
	成果指標・活動指標内容	単位	22年度	23年度	24年度(見込)	左記以外のH23年度実績
	県大会参加人数(活)	人	3,554	3,605	3,700	県大会参加人数で増加の大きかった内容 競技の部で参加者345人の増加
	地域版参加人数(活)	人	6,307	5,152	6,000	イベント広場で参加者207人の増加
	<効率指標(単位当たりコスト等)> 参加者1人当たりの費用	円 / 人	1,129	1,211	1,093	(効率指標 算出式) 概算事業費 / 参加者数

事業の成果	事業の目標(H23)	事業成果・評価	評価区分
	<p>県大会、地域版ともに、昨年度並の参加者数を得る。</p> <p>・県大会参加者数 3,600人 ・地域版参加者数 6,400人 ・総参加者数 10,000人</p>	<p>・県大会参加者数 3,605人(目標数比 + 5人 前年度比 + 51人) ・地域版参加者数 5,152人(目標数比 - 1,248人 前年度比 - 1,155人) ・総参加者数 8,757人(目標数比 - 1,243人 前年度比 - 1,104人)</p> <p>雨天により実施できなかった地域版のイベントがあったこと、主催するクラブや市町村の規模によることから地域版の人数が少なくなったが、おおむね期待通りであった。</p>	b 期待どおり

事業の課題	区 分	判 定 ・ 説 明			
	事業ニーズの変化	増加	横ばい	減少	判定の説明 ・県民スポーツフェスティバルは、広く県民に親しまれ、県民のスポーツへの関心を高めるとともに、スポーツの機会として位置づいている。 ・教育次長を会長に実行委員会の形で推進している。予算については、スポーツ振興くじ助成金を活用しているため、この形を継続する。 ・県大会は、会場・施設面から参加者数の大幅増は望めないが、競技団体等と連携してより多くの県民が参加できるように工夫する。地域版は、総合型地域スポーツクラブ等により、さらに地域住民のニーズに応じた内容にしていけるように働きかけていく。
	県の関与を見直す余地	余地なし	当面余地なし	余地あり	
	事業改善(有効性・効率性)の余地	余地なし	当面余地なし	余地あり	

総合分析等	総合分析 (今後の課題、取組方針等)	・参加者は小学生と60歳以上が多い状況であり、中学生から50歳代への働きかけが必要である。継続しての参加者が4割を超えて割合が増えている。さらに、報道機関等に積極的に働きかけて知名度を上げるなど、初参加者数を増やすための工夫をする。地域版については、「開催を知らなかった」という声があった。教育事務所と連携しながら、一層の広報の工夫が必要である。
	特記事項	